常葉大学健康プロデュース学部雑誌
第 15 巻第 1 号，2021 年 3月，55－62 頁

原著論文

大学のカヌー実習における授業評価

村本名史[1)]　瀧澤寛路[2)]

1) 心身マネジメント学科　2) 経営学部経営学科

Class Evaluation due to the Students in the Canoe Class of the University

Morifumi MURAMOTO，Hiromitsu TAKIZAWA

要　旨

大学授業でのカヌー実習における受講生による授業評価について検討することを目的とした。受講者を対象として、授業の内容、方法、および環境、授業の成果や満足度、授業担当教員の指導方法や態度に関する授業評価アンケートを実施し、スキー実習の授業評価と比較した。結果、カヌー実習での授業評価の値は概ね良好であったが、教員の熱意および授業環境の整備の値がスキー実習での値に比べて低かった。以上のことから、カヌー実習の授業は適切に運営され、受講生による授業の満足度は高かったが、教員の熱意および授業環境の整備に改善の余地が存在することが示唆された。

キーワード：大学、カヌー、授業評価

Abstract

The purpose of this study was to evaluate a university canoe class. We carried out the class evaluation questionnaires about contents, methods and environment, results and satisfaction of the class, the instruction methods and the attitude of the teachers, and compared the results with a physical education ski class. The results of the evaluations of the canoe class were lower than the results of the ski class in the enthusiasm of the teacher and maintenance of the class environment. The students were highly satisfied with the professionalism and effectiveness of the instructor in charge of the canoe class, but there are improvement points in the enthusiasm of the teacher and maintenance of the class environment.

Keywords : university, canoe class, class evaluation

1．緒　言

平成19年1月に中央教育審議会は、文部科学大臣から「青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について」の諮問を受け、青少年の意欲を高めるために重視すべき視点についてと青少年の意欲を高めるための方策について検討し、「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」として答申した。この中では、青少年の自然体験の少なさがデータとして示され、青少年の意欲を高め心と体の相伴った成長を促すためには、青少年の生活圏内に多様な体験を提供する場や機会をつくり、教育効果の高い体験活動を計画的に提供する方策の必要性が述べられている（中央教育審議会、2007）。

全国大学体育連合理事長であった中村（1992）は、「（前略）大学体育は、大学という狭い範囲のみの体育では十分とはいえない。」「（前略）視野を授業としての体育のみに限定せず、課外のスポーツ活動、さらには社会体育との密接な連携のもとに設計すべきである。」「学生の価値観の多様化とさまざまな身体活動の志向を可能にするため、豊富なプログラムが用意されるべきである。」「（前略）自然を相手としての生涯体育につながるコースも取り入れる必要があろう。具体的にキャンプ、サイクリング、スキューバダイビング、ウィンドサーフィン、スケート、スキーなどの一般社会人の興味の的となっているアウトドアスポーツも大いに取り入れて、集団訓練をも兼ねた集中授業方式で指導する事も考慮に入れたらよいと思う。」と述べている。

しかし沖田（1998）は、学校外の野外教育活動の場が、子どもが精神的に落着くことができ、自己存在証明のできる場としての「子どもの居場所」に、限られた子どもにはなり得ていると述べており、「また行きたい。」という子どもの自発的な言葉が多数出て、再びその機会を提供できることが、野外教育に期待されていることを指摘している。

一方、野外教育の指導者が参考にする野外教育指導書では、計画や留意点に関する記述が多く、野外教育で重要な「楽しさ」や「安全性」について詳述されている（佐野、1986）。プログラム評価に関する指導書もあり、参加者によるアンケート手法やスタッフ相互評価についても記述はあるが、具体的な評価項目に関する内容は挙げられておらず（川嶋、1999）、野外教育活動参加者への実施効果の評価方法は確立されていないと考えられる。

そこで本研究は、夏季に大学で実施されている野外体育授業において、学外での野外教育活動の実施効果を検討するため、授業の内容、方法、および環境、受講生の授業を受けた成果や満足度、授業担当教員の指導方法や態度を評価する方法を考案し、この方法を用いて大学で実施されたカヌー実習を分析し評価することを目的とした。

2．方　法

2.1　対　象

T大学の教育学部生を対象としたカヌー実習の授業において、受講生39名を対象として授業評価アンケートを実施した。受講生にはアンケート実施の目的を含めた研究に関する説明を実施し、データ提供に関する同意を得た。

2.2　カヌー実習の授業

山梨県の山中湖をカヌー実習場所とし、以下のようなタイムスケジュールと内容で授業は実施された。

1日目（大学キャンパス内において）
　10:45〜16:45　講義
　　野外教育と生涯スポーツ
　　野外実習の課題
　　カヌーを楽しむための基本的技術と知識
　　カヌーの歴史
　　カヌーの分類
　　パドル
　　カヌー各部の名称
　　カヌーの持ち運び
　　カヤックの乗り方・降り方
　　正しいフォームとセッティング
　　カヤックのフォワード・ストローク
　　カヤックのリバース・ストローク
　　カヤックのスウィープ・ストローク
　　カヤックのブレーキング
　　沈した場合の対処
　　カヤックの水抜き
　　より安全に楽しむために
　　（ライフジャケット、ヘルメット、スプレーカバー、フローティングパック、より快適なウェア）
　　なぜ山中湖で実施するのか
　　カヌー実習について
　　マナー
　　環境の変化に注意する
　　交通、宿舎
　　救急法

2日目
　（山中湖畔の宿舎）
　　12:00　各自で集合
　　13:00　開講式
　　13:30　実技Ⅰ
　　カヤックのフォワード・ストローク
　　カヤックのリバース・ストローク
　　カヤックのブレーキング
　　16:30　入浴

18:30　夕食
19:30　講義
　カヤックの基本スキル
　救急法
21:00　自由時間
23:00　就寝

3日目
7:00　起床
7:30　朝食、清掃
9:00　実技Ⅱ
　遠距離のカヌーイング
12:00　昼食
　カヤックの清掃
15:00　閉校式、解散

2.3　授業評価アンケート

カヌー実習での授業評価アンケートの内容は「関心の持てる授業内容であったか」「教員の話し方や説明は理解しやすかったか」「授業の進み方やペースは適切であったか」「学生の学習意欲や授業参加を促す工夫はされていたか」「授業に対する教員の熱意が感じられたか」「授業に集中できる環境をつくるために適切に対応していたか」「授業内容を自分の知識とすることができたか」「授業を受けて満足したか」「自由記述」などから構成される15の質問を設定し、無記名で、回答は5: とてもそう思う、4: ややそう思う、3: どちらともいえない、2: あまりそう思わない、1: 全くそう思わない、と5段階評価として我々が考案した授業評価アンケート（村本ら、2019）を使用した。

2.4　統　計

カヌー実習の授業評価アンケート結果は、カヌー実習を実施した教員と同一の教員を含む複数教員によって実施されたスキー実習の受講生33名から得られた授業評価アンケート結果（村本ら、2019）と比較し、等分散を仮定しないWelch's t testを用いて検定を実施した。なお、統計的有意水準は5%とした。

3．結　果

3.1　授業評価アンケート

授業評価アンケートは、カヌー実習の受講生39名からアンケートを回収し、回収率は100%であった。授業評価アンケートの設問および回答結果（平均±標準偏差を含む）を図1から図8に示した。また、カヌー実習およびスキー実習の受講生から得られた授業評価アンケート結果を比較すると、「授業に対する教員の熱意が感じられましたか？」（図9）および「教員は私語を注意するなど、受講者が授業に集中できる環境をつくるために適切に対応していましたか？」（図10）という質問に対する回答において両群の間に有意差が認められ、どちらもカヌー実習に比べてスキー実習の値が大きかった。

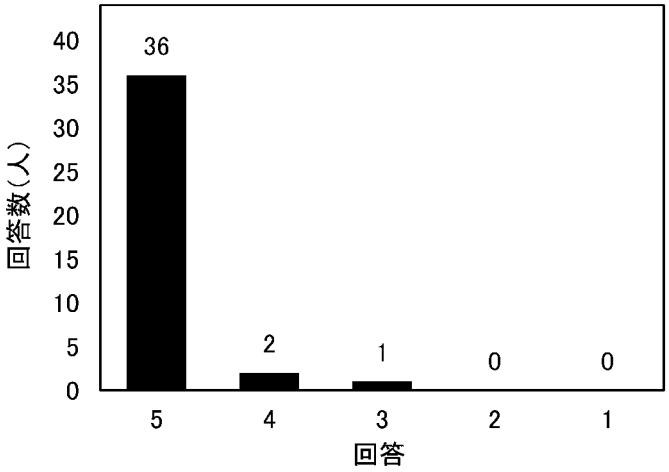

図1　関心の持てる授業内容でしたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.90 ± 0.38

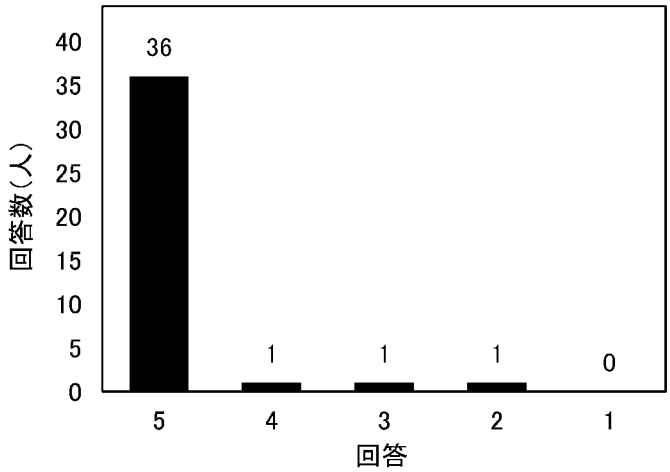

図２　教員の話し方や説明は理解しやすかったですか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.85 ± 0.59

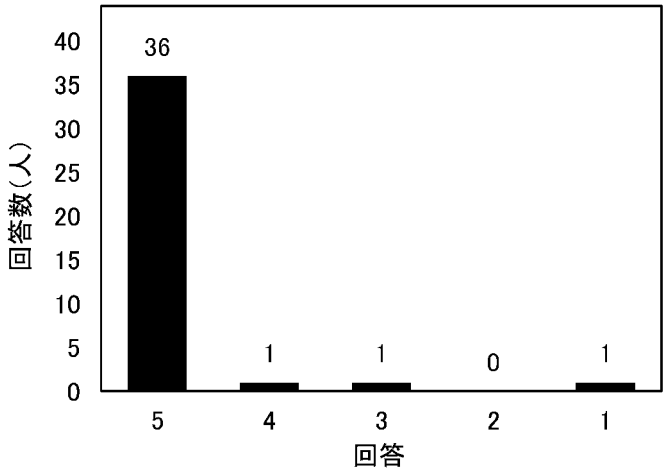

図３　授業の進み方やペースは適切でしたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.82 ± 0.72

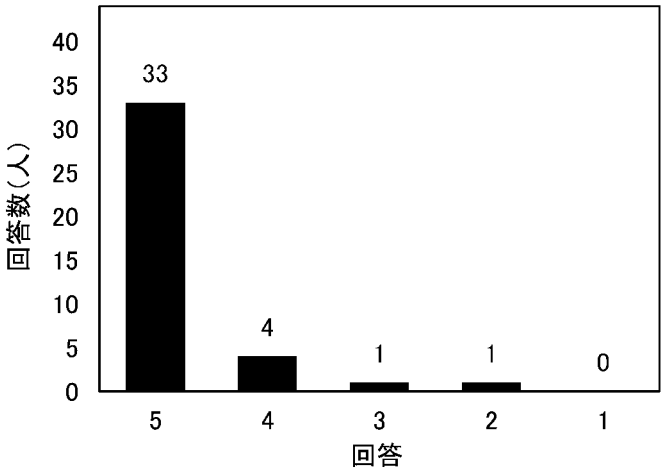

図４　学生の学習意欲や授業参加（発言、発表、話し合いなど）を促す工夫はされていましたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.77 ± 0.63

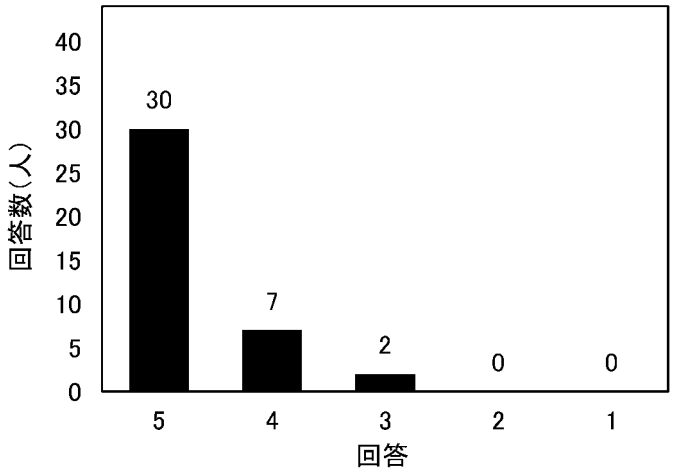

図５　授業に対する教員の熱意が感じられましたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.72 ± 0.56

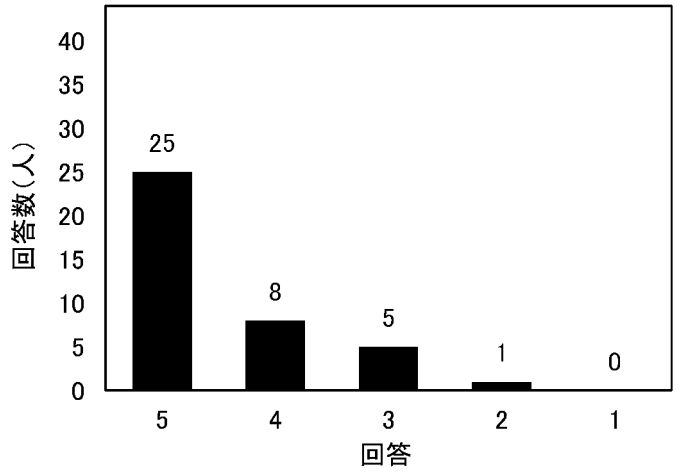

図６　教員は私語を注意するなど、受講者が授業に集中できる環境をつくるために適切に対応していましたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.46 ± 0.82

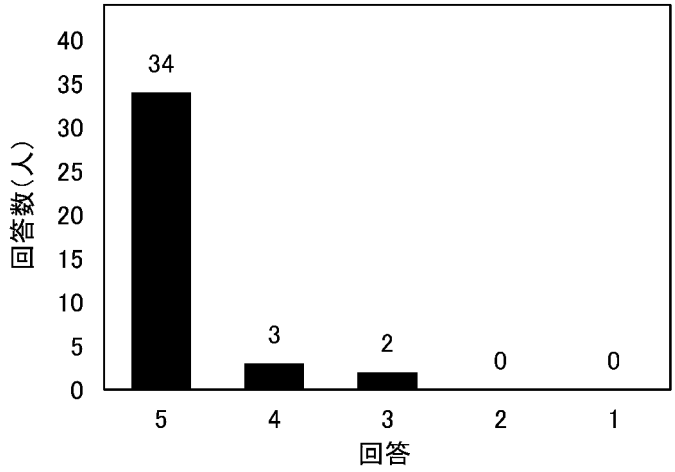

図７　この授業の内容を自分の知識とすること（良く理解）ができましたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.82 ± 0.51

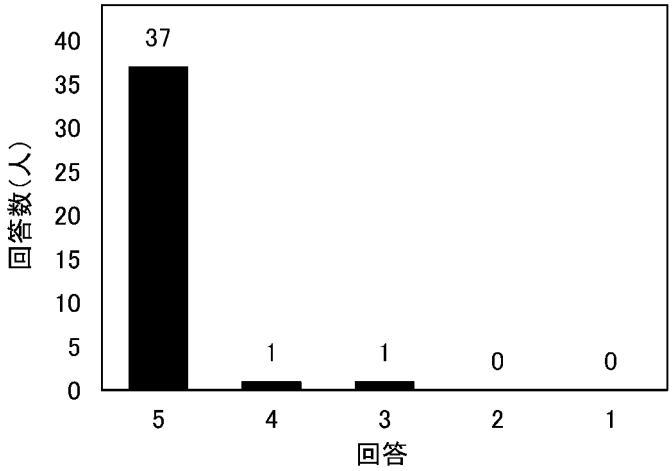

図８　総合的にこの授業を受けて満足しましたか？
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない
（平均±標準偏差）4.92 ± 0.35

表１　カヌー実習とスキー実習における授業評価アンケート結果の比較（平均±標準偏差）

	関心の持てる授業内容でしたか？	教員の話し方や説明は理解しやすかったですか？	授業の進み方やペースは適切でしたか？	学習意欲や授業参加を促す工夫はされていましたか？	授業に対する教員の熱意が感じられましたか？	教員は授業に集中できる環境をつくるために適切に対応していましたか？	授業の内容を自分の知識とすることができましたか？	総合的にこの授業を受けて満足しましたか？
カヌー実習	4.90±0.38	4.85±0.59	4.82±0.72	4.77±0.63	4.72±0.56	4.46±0.82	4.82±0.51	4.92±0.35
スキー実習	4.94±0.24	4.91±0.29	4.70±0.64	4.64±0.60	5.00±0.00	4.79±0.55	4.72±0.52	4.97±0.17

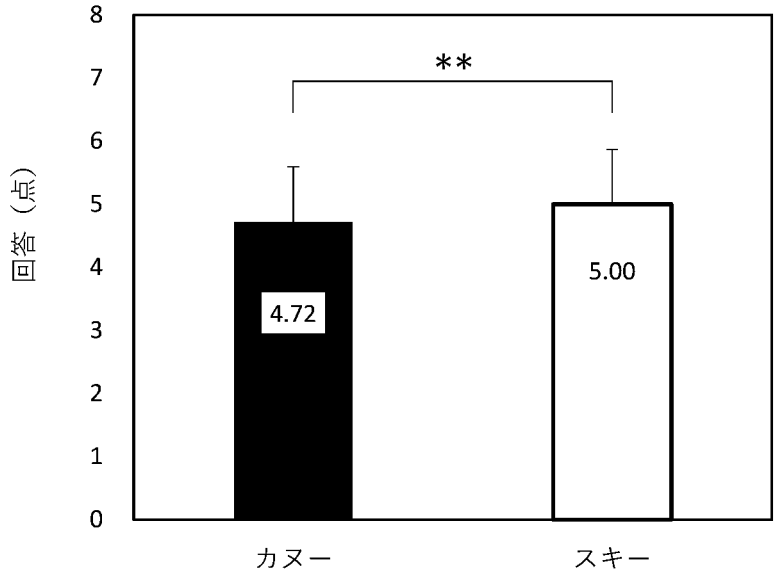

図９　授業に対する教員の熱意が感じられましたか？（平均と標準偏差、**: p < 0.01）
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

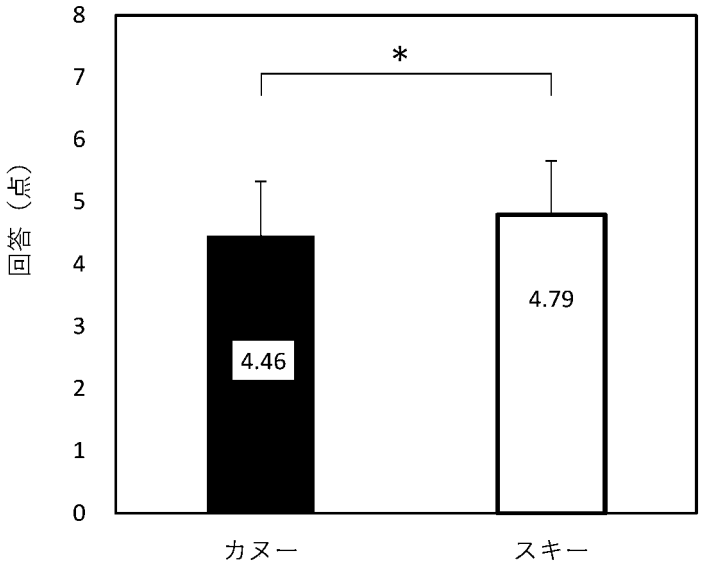

図 10　教員は私語を注意するなど、受講者が授業に集中できる環境をつくるために適切に対応していましたか？
（平均と標準偏差、*: p < 0.05）
（回答）5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

4．考　察

4.1　授業評価アンケート

これまで、我々は国内各地での野外教育の実施状況を調査し（国広ら、2010；村本ら、2011a)、学生が総合支援学校と連携して実施した離島における海浜実習、カヌー体験、スキー指導者研修会、自然学校スキー教室、障害者手帳を所持ずる者を対象とした雪遊び＆スキーツアーに関する活動内容等について報告した（国広ら、2011；村本ら、2011b)。北に日本海、南に瀬戸内海、中央部に中国山地が位置するという自然環境に恵まれた山口県での野外教育の計画や実施状況に関して詳細に調査した結果、運営をサポートした大学生や野外教育活動の参加者からは多くの肯定的な意見を得てきた。今回のカヌー実習は山梨県で実施され、比較対象としたスキー実習の実習地は長野県であり、どちらも大学キャンパスから離れた自然豊かな環境における宿泊を伴う短期間での学外実習であった。大学キャンパス内の体育館において毎週実施されたバレーボールの授業（村本ら、2018）における授業評価は、関心が持てる授業内容、教員の話し方や説明の理解しやすさ、授業進度の適切性、学習意欲や授業参加を促す工夫、教員の熱意、授業に集中できる環境整備、授業理解、満足度において、同一教員を含む複数の教員によって実施されたスキー実習での授業評価を下回ったことが報告された（村本ら、2019)。よって、学外における授業としての授業実施は、受講生および教員という人的因子だけでなく、自然や寝食を他の受講者と共にするという環境因子についても授業の質や授業効果の向上に期待できると思われる。また、カヌー実習での授業評価も高い値であったが、教員の熱意および授業環境の整備という２点において、スキー実習での結果を下回ったことから、さらなる授業改善の余地が存在すると考えられる。本研究の対象とした受講者が在籍するＴ大学は静岡県に位置し、一年を通じて比較的温暖な気候で知られ、東部には日本一の標高を誇る富士山や日本一深い湾で知られる駿河湾を有し、海洋性・山岳性の野外活動の実施には、絶好のロケーションにあるといえる（瀧澤、1994)。加えて、静岡県西部には水上スポーツに適した浜名湖も存在し、自然環境豊かで野外教育の実施に適した場所であると考えることができる。このような野外教育活動の実施に適した地域特性を利用して、今後の社会を担う青少年の意欲を高め心と体の成長を促し、様々な環境や状況に対応できる指導者を野外教育活動が普及・発展していくことを期待している。

5．結　論

本研究では、カヌー実習において授業評価アンケートを実施し、その結果を同じ野外教育活動であるスキー実習における授業評価アンケートの結果と比較し、分析した。この結果、カヌー実習での授業評価アンケートはスキー実習に比べ、教員の熱意および授業環境の整備において低い評価であった。このことから、カヌー実習における授業評価は概ね高い値であったが、教員の熱意および授業環境の整備の２点においてカヌー実習に授業改善の余地があることが示唆された。

文　献

中央教育審議会（2007）次代を担う自立した青少年の育成に向けて（答申）.
https:// www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm（2020 年 9 月 30 日閲覧）

川嶋　直（1999）プログラムの評価手法（野外教育指導者読本）. pp.98-99、野外教育指導者研究会.

国広勝代、ほか（2010）山口県、島根県および中部地区における野外教育の実施状況. マシヤマ印刷.

国広勝代、ほか（2011）山口県の自然を生かした野外教育プログラムの開発. マシヤマ印刷.

村本名史、ほか（2011a）山口県萩市、長門市および阿武町における野外教育の計画・実施状況. 山口福祉文化大学研究紀要、4:109-114.

村本名史、ほか（2011b）総合支援学校と連携した離島における海浜実習. 山口福祉文化大学研究紀要、4:185-190.

村本名史、ほか（2018）大学における体育実技（バレーボール）の反転授業および IT 活用の実践. 常葉大学健康プロデュース学部雑誌、12(1):81-93.

村本名史、ほか（2019）大学におけるスキーの体育授業での受講生による授業評価. 常葉大学健康プロデュース学部雑誌、13(1):65-74.

中村　誠（1992）大学体育　生涯スポーツの基礎固め. 日本経済新聞、1992 年 10 月 10 日.

沖田寛子（1998）野外教育の実践と課題. 社会分析、26:193-206.

佐野　豪（1986）指導者のための野外教育読本. 大修館書店.

瀧澤寛路（1994）生涯スポーツにつなぐ野外実習テキスト～カヌー編～. 黒船出版、p.4.